


健康登山13: 自然歩道06(大原～延暦寺～西大津)

コース	大原 3.8km/99 堂 1.7km/45 尊 2.7km/91	仰木峠 1.5km/53 玉体杉 3.7km/77 夢見ヶ丘 1.6km/34	横川中堂 1.5km/29 ケーブル延暦寺駅 0.7km/14 崇福寺跡 3.3m/47	元三大師堂～横川中 明王堂不動 JR西大津駅
水平距離	20.5km		断面図 縦軸：高度m 横軸：距離km	
水平換算距離	24.4km			
累計高低差	登り1384m、下り1528m			
標準歩行時間	8:09			
実績歩行時間	7:47			



山行報告

山行日 2006・6・1(木) 天候 快晴 参加者 7名

大原バス停8:42 三千院前8:51 仰木峠9:58 横川中堂11:10 元三大師堂～横川中  
 堂11:24 玉体杉11:58～12:30 根本中堂13:51 ケーブル延暦寺駅14:08 明王堂不  
 動尊14:23 夢見ヶ丘15:52 崇福寺跡16:32 JR西大津駅17:29

記 録

東海自然歩道の中でも三千院・延暦寺・近江神宮など社寺や史跡の多いコースである。このような社寺を丁寧に訪ねながら歩をすすめた。仰木峠で休んだが、快晴にもかかわらず琵琶湖が辛うじて見えるだけだった。仰木峠から横川中堂へは120mの階段道の昇降だが道が荒れていて歩き難かった。横川中堂と元三大師堂を拝観した後、稜線に登り返し玉体杉で昼食をした。延暦寺の境内はHSさんに案内してもらった。普通は立ち寄らない相輪櫓を見せてもらった後、積迦堂やにない堂を外から拝観し、ハイカー道を通して浄土院へ向った。一次解散希望の3名は根本中堂を拝観した後、ケーブルで坂本へ下山されるので根本中堂を一次解散地点としここで別れた。今回は大原からケーブル延暦寺駅までをA山行として案内した。水平距離12.2km、水平換算距離15.1km、歩行時間5時間の普通のハイキングコースである。西大津まで歩く4名は先を急ぎ、ケーブル延暦寺駅を14:08に出発した。弁天堂のところに無堂寺弁天堂～夢見ヶ丘間の東海自然歩道を2006・5・29から2007・3・31(土・日祝日は除く)まで通行止の掲示が出ていた。もし通れなければ624m地点から尾根を南方向に降り、穴太林道へ出ることにして先へ進んだ。幸い通れたが伐採作業中で危険だと感じた。8月度の周辺の山はコース変更の予定。桜茶屋跡から夢見ヶ丘までは少し昇降があるが、後は一気に崇福寺跡まで降った。ここで最後の休憩をとり、大仏さんや百穴古墳群を見て自然歩道を忠実に辿りながらJR西大津駅へ向った。時間の都合で近江神宮参拝は割愛した。西大津駅着17:30、予定通りだった。西大津までは水平距離20.5km、水平換算距離24.2km、歩行8時間のB山行である。

自然歩道 (大原バス停～延暦寺～JR西大津駅)



三千院前  
8:50



仰木峠で休憩  
9:58



横川への登り  
10:54



横川中堂  
11:03



玉体杉  
12:29



相輪檜  
13:04



根本中堂  
13:51



ケーブル駅  
から琵琶湖  
14:08



クリンソウ  
15:36



崇福寺跡  
16:32

名所・旧跡ミニガイド（自然歩道：大原～延暦寺～西大津）

洛北大原：「おおはら」の古名は小原、「小野」とも言った。ノ 野 は原野で自然のままの土地をさしハラ 原 は人手の入った平坦地や緩傾斜地をさす。

大原女：（おおはらめ）小原女「おはらめ」は八瀬秋元町の女性で御所に使えた。

小野霞：大原におつうという美しい娘がいた、若狭の殿様にみそめられたが、やがて大原に戻された。おつうは煩惱のはてついに蛇身となった…しかし家来に切り伏せられ彼女の首は「おつうの森」尻尾は「花尻の森」に埋められた。おつうの怨念は今も小野霞となって小塩山（金毘羅山や翠黛山など山塊総称）の谷から発生し二方面に長く尾を引いて浮遊、夜中にまた出会うという。

仰木峠：オオギとはもともとアフキ 安吹 の転訛語、タタラ炉で鉄などを溶鉱することである、伊吹山のフキであり、転じて青木、扇、大木ともなる。峠の下にある扇状地の上仰木地域など古代製鉄の野タタラには最適の土地といわれる。また大原から志賀に抜ける古い峠で牛若丸が、金売り吉次に連れられ稚児姿でこの峠を通り、みちのくへの旅に出かけたという伝説の峠。東西南北の五つ辻になっている。

横川中堂よこかわ：慈覚大師円仁によって開かれ、源信、親鸞、日蓮、道元など名僧が修行に入った地。848年に根本観音堂として創建したが信長の焼き討ちと雷火等で近年に再建されたもの。（比叡山三塔のひとつ）

元三大師堂：元三慈恵大師良源の住房跡、正月三日に入滅したので元三大師とも呼ばれている。元三大師を本尊としている。おみくじの元祖。

玉体杉：千日回峯行の行者道の途中で御所を望んで、玉体（天皇）の安穩を祈る場所にある杉の巨木の呼び名。行者はこの場所のみ腰を下ろして祈ることが許されている。京都市内からもこの杉は見える。

西塔さいとう：釈迦堂を中心に相輪櫓そうりんどう（仏塔の原型）にない堂、椿堂、恵亮堂、瑠璃堂、黒谷青龍寺などある

釈迦堂：信長の焼き討ち後、豊臣秀吉が三井寺から移したもので天台建築様式の代表とされる。（山内最古の建物）

にない堂：常行堂と法華堂という同形建物が二つ並び、弁慶が渡り廊下を天秤棒にしてこのお堂を担いだという伝説からきている。かつては東塔、西塔、横川の3ヶ所にあったが現存は西塔のものだけである。

椿堂：聖徳太子が椿の杖をさしておいたところ、根ついて枝葉が茂ったとか。

弁慶水：比叡山で修行を積んでいた弁慶が一千日夜にわたって山王院の千手観音に勇力を祈ったといわれる、山王院の近くに仏様にお供えするお水を汲んだ湧水場がある。

延暦寺：もともと日枝山寺（比叡山寺）といわれた。伝教大師最澄が奈良東大寺の戒壇院で受戒したあと、南都を捨て、比叡山へ登り785年（延暦4）に一葉いちじょう

止観院しかんいんを建てたのが始源。その後、最澄は 804 年に唐に渡り、翌年帰国して天台宗を開き、一乗止観院を根本中道と改めた。823 年（弘仁 14）開基の年号に因み延暦寺と称した。年号を寺号とする日本で最初の事例です。また桓武天皇の勅願によって鎮護国家の祈祷道場となり、京都御所の鬼門を守護する寺として繁栄した。

東塔とう とう：根本中堂（国宝）のある一帯が東塔で比叡山三塔十六谷の中心地。根本中堂には、1200 年間消すことなく「不滅の法灯」が灯り続けている。

大講堂：昭和 31 年 11 月、元禄時代再建の大講堂が寺男の放火で焼失、山麓の讃仏堂を移築したもの。（国重文）

戒壇院：天台宗の僧が大乘僧となるため受戒する道場。奈良東大寺、九州観世音寺、関東薬師寺のどこかで受戒しなければ一人前の僧になれなかった。そこで最澄の血の滲む苦勞のすえ死後 7 日目にやっと勅許がくだり天長 4 年（827）に創建された。

無動寺谷：「叡南」、「南山」とも称される。千日回峯行を行う修行の中心地。

慈覚大師円仁の弟子の相応そうおうが開いた所。南山の中心の明王堂には葛川かつらがわ参籠で相応が感得したという不動明王像を祀る。また白蛇出現の霊地といわれ、毎年 9 月に巳成金みなるかねの大祭が行われる弁天堂などがある。

坂本ケーブル：1927 年開業、距離 2025m で日本一長いケーブルカー、11 分で結ぶ。

因みに八瀬ケーブルは高低差 561 で日本最高でこれも日本一です。

縁福の切符と車輜、この二文字は第 253 世座主大僧正山田恵諦猊下白寿の御真筆。人々に良い縁を導くよう、幸福へ導く車輜となるよう名付けられたもの。

崇福寺跡：大津京を開いた天智天皇が大津京の守護のため 668 年に神託を受け創建された。金堂や塔などの伽藍の基礎の配列が残っておりかなり大きな寺であったといわれている。塔心礎から舍利容器（国宝、奈良時代）が出土している。（国史跡）

天武天皇の第五皇子穂積皇子ほづみのみこと第一皇子高市皇子たけちのみこと但馬皇女たじまのひめみことの三角関係から勅使に事寄せ持統天皇は穂積皇子を一時崇福寺に幽閉させ高市皇子との立場を繕ったといわれている。（高市皇子は壬申の乱の将軍で功績をたてて太政大臣になった人、高松塚古墳の埋葬者の説もあるが穂積皇子説もある）四十歳の高市たけちのもとに嫁がされた但馬は幼馴染の穂積皇子（異母兄）を慕う心が強く、皇子が近江の志賀の里の山寺に遣はす時に但馬皇女の作った歌がある。『後れ居て、恋いつつあらずは追い及かむ、道の隅まみに標結しめゆへ我が背せ』「このまま残されて恋焦がれているよりか、いっそのことあなた（穂積）を追って行くよ、道がわかるよう角々に印を付けておいてください、あなた」穂積皇子は万葉集で悲恋の主人公として有名。

志賀の大仏<sup>おおぼとけ</sup>：阿弥陀如来坐像石仏で高さ 3.5m幅 2.7m南北朝時代の作。崇福寺から京都北白川へぬける志賀越えは当時の幹線道路。道中の安全を守る道祖神であったかも。

百穴古墳群：10～20mの小規模の円墳で横穴式石室をもつ 100 基あつたので、この名がついた。64 基まで判明、残りは埋没しているとのこと。

宇佐山城跡<sup>よしなり</sup>：信長の家臣森可成（森蘭丸の父）が 1570 年に築城、昭和 46 年発掘調査で本丸などのなどがわかり石垣が残っている。朝倉、浅井の連合軍が信長を追って南下した、応戦した森可成は討ち死にした、連合軍は宇佐山城の端城まで攻め込んだが信長の家来、武藤五郎衛門らの奮戦で落城を免れたという。信長軍が優勢となったので、朝倉、浅井軍は比叡山(壺笠山)に逃げた、これが比叡山焼討ちの原因となった。信長は宇佐山に陣をはり対陣したと伝えられている。宇佐山（336m）は神社の名からきている。

信長は明智光秀に近江を与え光秀はこの城を廃して坂本城を築いた。

壺笠山：朝倉、浅井連合軍と信長が対峙したところで連合軍の拠点、叡山僧兵の支援をうけた。

宇佐八幡宮：近江神宮の近く 源頼義（頼朝の五代前）が治暦元（1065）年に宇佐八幡を勧請して創建。近くには頼義の屋敷があったという。

志賀八幡神社：滋賀の里にある 白鳳 9（659）年？の創建。祭神は応神天皇。

埋蔵文化財調査センター：常設展示室 無料 9:00～17:00 土日祝は休館。

南志賀町廃寺跡：大津京廃宮跡に建てられた寺院という説。（国史跡、白鳳時代）

錦織遺跡<sup>にしこおり</sup>：大津宮跡「志賀宮址碑」の碑。百済の救援で出兵して白村江の戦いで敗北したのが原因で防御のため、中大兄皇子が近江に遷都したが壬申の乱が起こり五年目で廃墟となる。

葛川明王院<sup>かつらがわ</sup>：（安曇川の坊村）比叡山無動寺の奥の院ともいわれる。無動寺で修行していた円仁の弟子相応がさらに比良山中に幽深の地を求め、独自の回峯修験の行をみ出した、葛川の滝で修行中のある日、地主神、思古淵明神<sup>しこぶち</sup>の託宣によって三の滝の瀑水のなかに不動明王の姿を拝し、滝つぼから引き上げた霊木で不動明王を刻み安置したのが起源という。（無動寺谷にあるのは明王堂）

滋賀県の歴史散歩より。